創立1880年
東京YMCA
2009 1/2月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　新井廣和
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

新理事長に茅野徹郎氏
新総主事に廣田光司氏
財団 仲田理事長 新井総主事退任

茅野徹郎氏

廣田光司氏

江東区より運営を委託されている東雲第二学童クラブ・東雲第三学童クラブに関連する不祥事で、新井廣和総主事が12月末を以って退任した。

㈶東京ＹＭＣＡは1月16日の理事会で、理事長の任を辞した仲田達男氏の後任に、茅野徹郎副理事長を選任した。副理事長には郡山千里理事が決定した。また1月23日の常議員会で、新理事に鈴木健次常議員が選出された。

理事会は1月1日付で廣田光司・日本ＹＭＣＡ同盟統括主事を総主事代理に委嘱し、同23日付で総主事に就任した。

中越沖地震被災者支援
子どもたちを励ましたい
スキーキャンプで心のケア

東京ＹＭＣＡは中越沖地震（新潟県）の被災者支援として、特に子どもたちの心のケアを大切に考え、10月に実施した妙高デイキャンプに続き、ＹＭＣＡスキーキャンプ（12／26～30・志賀高原・南センター主催）に5人の子どもたちを招待した。

スキー初体験の子も多く、戸惑いながらも、帰りのバスではキャンプソングの大合唱。冬の柏崎市、仮設住宅の生活も厳しい季節に、子どもたちに楽しく貴重な時間を提供することができた。子どもたちから届いた手紙を紹介する。

わたしは、スキーキャンプにいってよかったです。東京の子どもたちに会えて、よかったです。まいける（ボランティアリーダー）グループのおともだちのことをぜんぜんしらなかったけど、５日間でなかよくなれてよかったです。行きのバスの中で、となりになったのは、まいちゃんです。まいちゃんは雪を見て、「早く雪であそびたい」と言ってました。

バスの中で、まいけるのにがおえを書きました。まいちゃんも書きました。まいけるのにがおえは、ほかのみんなも書きました。帰りのバスのなかでまいけるが、（似顔絵は）グループのだれのかを言いました。まちがった時もあったけど、せいかいした時もありました。

スキーキャンプの中でうれしかったところは、スキーがすべれるようになったことです。

（渡辺七海）

わたしは、12月26日に東京の人とスキーキャンプに行きました。４日間とまりました。その中で楽しかったことは２つあります。

１つ目は、チームタイムの時間です。チームではミサンガ作りをしました。最初はうまくできなかったけど、パーコ（ボランティアリーダー）に教えてもらって、最初よりよくできました。また、合同でしたゲームもとても楽しかったです。みんなで協力してできて、うれしかったです。

２つ目はスキーです。わたしはスキーはやったことなかったから、やったときはとても楽しかったです。ひとりですべることができてよかったです。リフトにのったとき、少しこわかったけど、楽しかったです。

（渡辺沙羅）

『理事長よりのアピール』

理事長　茅野　徹郎

我々は改革をしなければならない。その改革をスタートさせる為の自己認識として、まず、危機感を共有することから始めたい。長い間社会から期待され信頼されてきた東京ＹＭＣＡのあるべき姿として、今これでよいのかを自ら問うことが組織の全員に求められている。現状を見てみると、信頼関係の再構築、露呈した組織の脆弱性を改善することなど、我々のなさねばならないことは非常に多い。

今回の問題を局所的なこととして矮小化することは、本質から目を逸らし禍根を将来に残すことに他ならない。よく内部を観察すると、我々の組織は全体として経年劣化が進行しており、言い換えればシロアリにやられている部分もあると言わざるを得ない。

とは言っても悲観的になる必要は全く無い。ＹＭＣＡが持っている訓練された人的資源やノウハウは、それが的確に活かされれば世の人々のために大きな力を発揮するはずの貴重な財産である。その為ひとりひとりが使命を自覚し、ベクトルをあわせて一緒に進んでいけば、道は必ず開けると確信する。

一発逆転のリカバリーショットは、天才が幸運に恵まれたときのみ可能なことであり、それを我々凡才が狙ってはいけない。当たり前のことを、当たり前に毎日コツコツと忠実にやっていくことこそが大事であり、結局はそれが目標に達する最短距離なのである。したがって改革とは、奇策や目新しいことを考えることでなく、既に頭で知ってはいるが、従来の慣習などに妨げられて出来なかったことを、思い切って着実に実行することである。

総主事就任あいさつ
『地域社会の信頼に応える決意』

総主事　廣田　光司

ご恩寵のもと、日々豊かに用いられておりますこと、心より感謝申し上げます。この度、新井廣和第12代総主事の後を受け、東京ＹＭＣＡの第13代総主事を仰せつかりました。

２０１０年には創立130周年を迎えようとしている東京ＹＭＣＡは、日本で最も長い歴史を持つＹＭＣＡとして、その時々に新たな役割を担ってまいりました。その歴史は日本のキリスト教の歴史とともにあることはもちろん、「地域社会への奉仕と青少年の育成」という歩みの中で明らかにされています。この歩みは多くの先達が築きあげてきたものであり、歴史を振り返るとき、責任の重さを思わずにはいられません。ＹＭＣＡの活動のすべてが神様のご用命であることを思う時、歩むべき道筋が整えられていることを固く信じ、その道を多くの会員・同労者とともに邁進する所存であります。

昨年の行政よりの受託事業において発生した一連の出来事を真摯に受け止め、改善措置を確実に実施するとともに、ＹＭＣＡが存在する地域社会の信頼に応えうる組織・団体となるために鋭意努力を続けて参ります。

歴史が物語るように、地域に根ざし、世界を見据えられる多くの指導者を社会に送り出してきた私達は、互いに認め合える人々を育てることの重要さを知っています。人の関係を大切にする社会、「公正で平和な世界」をつくるために、さまざまな運動を展開してまいります。

集う皆様のご協力、お支えをお願い申し上げます。

赤▽三角

私たちの生活を支えているものがこんなにも底の浅いものだったのだろうか。昨今の新聞には、連日日本のトップ企業の不況によるリストラの記事が載っている。100年に一度といわれる不況が、単なる言葉遊びではなく、現実的に私たちの生活を脅かすようになってきた。▼東京ＹＭＣＡにおいても職員による不祥事に端を発して、大事な人材であるトップリーダーが2人退任するという大きな痛手を負うことになった。スタッフは日常の業務をそれぞれ的確に処理してきていたが、図らずも脆弱な部分があったことを露呈した結果である。▼幸いにも行政からは不祥事が組織的、意図的ではないものということを理解していただき、従来の委託事業は継続して行えるようになった。その継続を許可された理由の一つに「委託事業の利用者の大半がＹＭＣＡによる事業の継続を希望している」ということが挙げられている。▼これは東京ＹＭＣＡのスタッフが、日頃から子どもたちの育成に誠心誠意努めていること、その活動が間違いのないものであると認められた証ではないだろうか。このことは、うつむきになりがちな私たち会員にとっても、東京ＹＭＣＡの前途に光明を、そして勇気を与えてくれるものではないだろうか。▼言い古された言葉だが「雨降って地固まる」如くの結果になるように願ってやまない。

（本会理事　鈴木健次）

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。